

「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」

平成28年度実施報告書

埼玉県立不動岡高等学校

1 学校の現状と課題

＜現状＞

「明日の世界を創造する品格あるリーダーを育成」を教育目標として、生徒は勉強、部活動、学校行事などに意欲的に取り組んでいる。3年次生のほぼ全員が4年制大学進学を目指し、国公立大学合格者数は、平成26年度は65名(卒業生を含めると80名、うち東京大学に3名)、平成27年度は76名(卒業生を含めると88名)であり、「未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト事業」での一定の成果を得た。

「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」の推進校となった平成28年度の国公立大学合格者数は、59名(卒業生を含めると76名)であり、現役合格者数こそ減少したが、最後まで積極的にチャレンジし、第1志望を諦めず進学準備を選んだ生徒も増加した。

＜課題＞

- ◇不動岡高校の生徒はまじめで素直であるが、自分の力に自信を持たず、主体的に自ら考え行動して課題を解決する力は弱い。生徒に高い学力を身に付けさせるとともに、不動岡生としての自信と誇りを持たせ、思考力・判断力・表現力や国際社会に貢献しようとする高い志等を育成することが課題である。
- ◇もう一步のところまで学力が届かずに、第1志望進学を実現できなかった生徒も多い。早期に高い志を立てさせ、維持し、難関国立大学等の受験者、合格者を増やすことが課題である。

2 本校における27年度までの取組及びその成果と課題についての概要

＜取組＞

平成24年度に全学年での早朝登校・学習、週末・週間課題を全校で行う体制が整い、現在も継続して実施している。また、進路指導部を中心に組織的な長期休業中の補習、年間6回の担任と生徒の面談、1年オリエンテーション合宿、授業力向上のための校内研修会、予備校の授業研究会・セミナーへの参加、土曜公開授業等の取組を行ってきた。さらに、文部科学省から平成23年度にSSH、平成27年度にSGHの指定を受け、人材育成のための教育課程や指導法の研究開発に取り組んでいる。

＜成果と課題＞

様々な取組の結果、平成26～28年度の国公立大学合格者数(卒業生を含む)は、平成26年度80名、平成27年度88名で、平成28年度は75名であった。東大、一橋大、東工大といった難関国立大学の合格者数(卒業生を含む)は少ない。平成26年度は東京大学に3名(卒業生)合格したが、後に続く生徒は出ていない。

平成26年度：東大3名、一橋大0名、東工大0名 計3名

平成27年度：東大0名、一橋大0名、東工大2名 計2名

平成28年度：東大0名、一橋大0名、東工大2名 計2名

また、早稲田、慶応、上智、理科大といった難関私立大学の合格者数（延べ人数）もほぼ横ばいである。

平成26年度：早稲田20名、慶応3名、上智2名、理科大24名 計49名

平成27年度：早稲田17名、慶応3名、上智1名、理科大32名 計53名

平成28年度：早稲田名19名、慶応4名、上智5名、理科大18名 計46名

東大、一橋大、東工大といった難関国立大学の合格者が増えれば、結果として、難関私立大学の合格者数も増えると思われる。難関国立大学の合格者を、少人数であっても継続的に出していくことが課題となっている。

3 本年度（28年度）の実践

1) リーダー育成、学力向上に向け、外部人材を活用した講義・講演等の実践について

ア 講義・講演等のねらい

受験生としての高い志の維持・向上

イ 講義・講演等の概要

- ・日 時：平成28年7月4日(月) 14時30分～15時35分（質疑応答を含む）
- ・講 師：駿台予備学校 大宮校校長 大島 保彦 氏
- ・演 題：「世界は意味であふれている」
- ・対 象：3年次全生徒

ウ 生徒の様子（アンケート結果より）

ユーモアを交え、ポジティブ思考に貫かれた講演に生徒は聴き入っていた。

- ・「間違えることはダメなことじゃなくて素晴らしいこと(Wonderful Mistake)という言葉が印象に残りました。今まで悲惨なテストの結果は見るのも嫌だったけれど、そこにこそ自分にとって有益なものがあって、活用しないのはもったいないと思えました。
- ・「成績を上げるとは、昨日までの間違いを今日できるようにすること」。「誰にでもチャンスは来るが、目の前にチャンスが来た時、そのチャンスを生かせるよう、今は力を蓄える時期」。自分は将来何をやるんだろうって思っていたけれど、「その時」のために準備だけはしておこうと思いました。
- ・日常的な動作がミスを犯す原因になっていると聞き、その通りだなと思いました。また、周りの物事に意味を見出し、知識として取り入れることで見える景色が変わってくることも知りました。考え方や取り組む気持ちというものも受験生の私たちに大切なんだと分かりました。

2) 県主催の事業に参加した生徒による報告会等学校全体への波及の取組についての実践

ア 報告会等のねらい

事業に参加した生徒が得た経験や知識を還元することで学校全体の活性化を図る。

イ 報告会等の概要

事業終了後の学年集会やホームルーム等での報告および報告書のホームページ掲載による

ウ 生徒の様子（アンケート結果より）

いずれの事業についても、参加した生徒はよい刺激を受け、学校生活に活かそうとする様子が見られた。

＜参加状況＞下記の11の事業に延べ32名が参加した。

- ・「高校生のためのアスペン古典セミナー」 in 埼玉 3名
- ・「高校生のためのアスペン古典セミナー」 in 埼玉フォローアップセミナー 3名
- ・芸術文化アカデミー『対話からはじまる美術』 2名
- ・芸術文化アカデミー『アトリエ訪問』 2名
- ・芸術文化アカデミー『県立近代美術館企画展』 1名
- ・「東日本大震災被災地訪問」 3名
- ・スポーツ教養セミナー『最先端スポーツ研究施設訪問』 4名
- ・「先端研究施設訪問」（高エネ研&産総研） 4名
- ・スポーツ教養セミナー「トップアスリート講演会」 2名
- ・医学部訪問セミナー 4名
- ・「高1生・高2生対象国公立大学医学部医学科受験対策講演会」 4名

＜感想等の抜粋＞

- ・対話していくうちに自分の考えにある靄が取り除かれ、これが自分の本心だったのか、そしてその本心と似たことを感じている人がこんなにもいるのかと感動しました。
- ・自分の考えを持ち、それを伝えることの大切さ、難しさの両方を感じました。誰かの考えを聞くことで自分の疑問を解決する糸口になったり、共感できることがあることが分かりました。
- ・読んだことのない作品がほとんどで、読むことができよかったです。対話によって他の人の素晴らしい意見が聞けたり、自分の意見も受け入れられたりしたことが嬉しかった。
- ・物事を逆に見ることの面白さ、大切さを感じました。これからも自分の見える世界のみならず、他の分野にも手を伸ばしていきたいと思いました。
- ・アスリートの人たちが、食事や心理、情報、施設などあらゆる面からサポートされていることがよくわかった。また、スポーツ選手というものの厳しさを垣間見た気がした。
- ・心理を考えるときに、心情、感情、メンタルを科学的に数値にして表すことはとても大事だということを学びました。一人の人を支えるということは、ものすごく時間も研究も必要だなと思った。
- ・自分は運動部のマネージャーをしているが、今回学んだことを部員にも伝え、しっかりサポートして、競技力を向上できるよう頑張ります。

3) 遠県視察（秋田県訪問）について

ア 報告会等の概要

- ・日 時：平成29年3月21日（火）14時00分～15時35分

授業研究推進委員会主催の授業力向上研修の一環として、報告会を実施した。参加者による遠県視察報告に続き、生徒による授業評価アンケート結果やセンター試験の結果等を踏まえ、本校教諭2名が講師となって実践報告を行った。

イ 視察を踏まえた指導改善の取組または見通し

特徴ある3つの先進校視察の報告から、生徒の高い志と一層主体的な学習態度を育成することの重要性が認識された。この認識を基に、今回の研修会でも行ったように、本校教諭それぞれが取り組んでいるアクティブ・ラーニングの視点からの授業

改善に係る実践研究を学校全体で推進していきたい。

4) 学校において事業5年間を見据えた組織的な進路指導体制を構築する取組について

①進学重視型単位制

本校では、確かな学力を身に付け、人間力を育成するためのカリキュラムを組んでいる。現在、県内で唯一の3年間6学期（セメスター）制・進学重視型単位制システムを採用しているが、次期学習指導要領、高大接続システム改革の流れを踏まえ、平成30年度入学生から進学重視型単位制は維持しつつ、50分授業、3学期制に変更し、より充実した探究型学習に取り組める環境を整えた。今後は生徒にどのような力をつけるか、どのようにつけるか各教科を中心に検討し、全職員で実践研究に取り組んでいく予定である。

②Fプラン

本校では、総合的な学習の時間とLHRをあわせて「Fプラン」とよんでいる。内容は、「進路学習」と「発信型学習（ディベート、小論文）」の2本柱である。

1年次：「キャリアガイダンス」「大学入試研究」「大学見学会」「ディベート学習、不動岡版白熱教室」

2年次：「大学見学会」「SG課題研究」「SS課題研究」

3年次：「進路学習」「個人研究論文」

3年間で系統立ててプログラムされており、思考力・判断力・表現力を高め、難関大学も視野に入れた総合的な力を育成する。

③その他

長期休業中の補習や年6回の面談、大学入試問題研究などを、進路部と学年で連携を図り、組織的・系統的に実施している。

5) その他

①3校（不動岡・春日部・越谷北）合同サイエンス教室

日時・場所 平成29年9月25日（日） 9:30～13:00 春日部高校

実施概要

各校2名の代表者からなる生徒実行委員会を設置し、講座の内容から教室の割り振り、当日の受付運営までの全てを委員会が行った。各校の科学系文化部が様々な講座を用意し、合同企画も加えて、科学が苦手な小中学生が楽しめる実験や体験を多く取り入れ実施した。身近な材料を使って体験できる講座として、石膏を使って作る化石のレプリカ、カメラのフィルムケースと発泡入浴剤でつくるロケットなど小中学生の興味を引くような体験講座が人気を集めた。本格的な実験としては、液体窒素を使った実験や科学捜査で使われるルミノール発光実験、家庭用ゴムホースなどで製作された人が乗れるホバークラフトなどもあり、年々科学技術と表現力は向上している。

成果と課題

- ・参加した多くの生徒が科学の面白さを伝えることができたと感じている。
- ・合同企画により他校生との交流を深め、切磋琢磨する機会となった。
- ・秋の運動会時期と重なるため延期も視野に入れて実施日程を調整する。

②Fプランにおけるディベート学習、不動岡版白熱教室の実施

今年度「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」の推進校となり、多角的、多面的かつ論理的に考える力を育成するため、1年次で実施している「ディベート学習」を発展させ、「不動岡版白熱教室」を実施した。概要は以下のとおりである。

10月6日（木） ディベート入門① ディベートの今後の予定、

ディベートテーマについての講義

「日本政府は、日本の全ての市民にベーシック・インカムを給付する社会保障制度を採用すべきである。是か非か。」

- 10月13日(木) ディベート入門②(2・3限実施)
指導 松本 茂 先生(立教大学教授)
- 10月20日(木) ディベート入門③役割分担と作戦会議、
調べ学習
- 11月17日(木) ディベート準備①作戦会議・資料収集
11月24日(木) ディベート準備②作戦会議・資料収集
12月1日(木) ディベート準備③作戦会議・資料収集
1月19日(木) ディベートマッチ(クラス内①)
1月26日(木) ディベートマッチ(クラス内②)
2月2日(木) ディベートマッチ(クラス対抗①)
2月9日(木) ディベートマッチ(クラス対抗②)
2月16日(木) ディベート代表戦+白熱教室(4.5限実施)
指導 桐谷正信 先生(埼玉大学教授)



成果と課題

- ・物事を多角的、多面的にとらえることの必要性を認識することができた。
- ・感情に流されず、客観的な根拠をもって議論を進めることの大切さを体験的に学習することができた。
- ・1年次生全員でディベート学習に取り組むことで、教科の授業においても自分の考えを積極的に発言できるようになった。
- ・ディベートの深まりはテーマを設定によるところが大きい。肯定側、否定側が同程度の視点から議論を構成することのできるテーマ設定をする必要がある。
- ・ディベートの枠組みの中の議論から一人一人の判断に基づく議論が活発に行えるようになるには、指導方法により一層の工夫が必要である。

4 参考資料

平成28年11月17日に全校生徒を対象に行った本校独自の「生徒学習状況調査」の結果の一部、質問【43】を掲載する。これは、「骨太のリーダーを育成する高校生のための埼玉版リベラルアーツ事業」の前身である「未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト」の実施にあわせて平成25年度に新設し、継続しているものである。

【43】 不動岡高校の様々な行事に参加して、リーダーとして社会に貢献しようという意識が向上しましたか。

- 1 = 向上した
2 = どちらかといえば向上した
3 = どちらかといえば向上しなかった
4 = 向上しなかった

→ 1 または 2 と回答した割合
74.3%(H27 66.1%)

